

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する	<p>【整備前】 水族館は昭和62年にリニューアルされて以降、30年以上園地を含めた抜本的な再整備は実施されておらず、設備をはじめとして全体的に老朽化が進み、来園者のニーズに十分に対応できない状況が生じていた。また今後も持続的かつ安定的に運営していくために、民間活力を取り入れた抜本的な再整備による魅力向上が求められていた。（旧水族館の利用者数は年間1,100千人）</p> <p>【整備後】 今回の整備においてPark-PFI制度を導入し、民間の資金とノウハウを活かすことで、水族館やホテルのほかにレストランやカフェ等幅広いコンテンツの提供が可能となった。園地についても、遊具や園路等の施設が一新されることで、幅広い世代の利用者が公園を楽しめる空間となった。その結果、公園利用者が増加した。（新水族館の利用者数は年間2,133千人）</p>
交付対象事業の効果の発現状況	

II 定量的指標の達成状況	指標①： 公園施設の改修の次年度において、民間事業者が計画する利用者数900千人増の実現を目指す。	最終目標値	2,000千人	目標値と実績値	・ 目標を達成した
		最終実績値	2,133千人		
	指標②： 公園施設の改修の次年度において、駐車台数9万台増の実現を目指す。	最終目標値	33万台	目標値と実績値	・ 目標を達成した
		最終実績値	45万台		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<p>・再整備前後に実施した利用実態調査の結果、整備前は「1人」での来訪者が多い傾向にあったが、再整備後は「家族」や「グループ」での訪問者が増え、水族館のみを目的とした観光だけでなく、子育て世代の行楽の場として活用されるようになった。水族館のみを目的とした観光だけでなく、公園内の他の施設もあわせて活用されるようになった。</p> <p>・水族館やホテルだけでなく、園地の改修を一体的に実施したことによって、園地全体の利便性、安全性を高め、公園利用者向けのサービスの充実、地域の活力やにぎわいを創出した。</p>
--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

<p>・今後も引き続き公園の魅力を高め、地域の賑わい創出や魅力向上に寄与するよう、官民連携での公園運営を実施していく。</p>	
---	--